

科目名	生命倫理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	中谷内 悠		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	生命倫理学の講義では、現代の医療、たとえば終末期医療、生殖医療、臓器移植において生じている倫理的な問題を取り扱う。そこで問題となっている事柄や価値観を知るとともに、医療にかかわる者として学生自身が自分なりの意見を持ち、それを他者に明確に説明できるようにすることを期待する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					上記のような問題提起に対し、自己決定の尊重、生命の尊厳人権といった倫理的な価値やそれらに関する様々な考え方を理解する。	
	○					こうした問題の検討を通じて自身の拠って立つ 価値観を探りつつ自らの意見を獲得する。	
テキスト・教材 参考図書	波多江伸子、寺田篤史、脇崇晴・著『考えよう！生と死のこと』、木星舎、2016年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生命倫理学とは何か?			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	生命倫理学の基礎 インフォームド・コンセント			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	生命倫理学の基礎 パターナリズム			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	生殖医療 生殖補助医療			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	生殖医療 人工妊娠中絶			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	生殖医療 選択的人工妊娠中絶			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	生殖医療 いのちの選別の問題			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	臓器移植 脳死と臓器移植			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	臓器移植 臓器摘出の条件の問題			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	臓器移植 再生医療			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	終末期医療 安楽死、尊厳死			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	終末期医療 安楽死と患者の自己決定権			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	終末期医療 安楽死における「死の自己決定権」の問題			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	授業全体の振り返り			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	統計学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	高橋 義文		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析して貰います。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着けていることが目標です。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			統計データについて種類や特性について理解する		
			○		基本的統計について簡単な計算ができる		
				○	科学的な手法について興味を持つ		
テキスト・教材 参考図書	配付資料 参考文献: 統計学教育研究会編(2006)『らくらく統計学』, ムイスリ出版,						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計データの整				本日の授業内容を復習してください	
	2	標本分布の値の特性値				本日の授業内容を復習してください	
	3	2次元データの特徴を表す特性値				本日の授業内容を復習してください	
	4	期待値と分散				本日の授業内容を復習してください	
	5	標本平均の分布				本日の授業内容を復習してください	
	6	標本分散の分布				本日の授業内容を復習してください	
	7	点推定と推定量の望ましい性質				本日の授業内容を復習してください	
	8	母平均の区間推定(1)				本日の授業内容を復習してください	
	9	母平均の区間推定(2)				本日の授業内容を復習してください	
	10	仮説検定の基本的な考え方				本日の授業内容を復習してください	
	11	平均値に関する仮説検定(1)				本日の授業内容を復習してください	
	12	平均値に関する仮説検定(2)				本日の授業内容を復習してください	
	13	分散に関する仮説検定				本日の授業内容を復習してください	
	14	度数・比率についての検定				本日の授業内容を復習してください	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記/実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	○			80%
	レポート	○	○	○	○		20%
履修上の注意	電卓を持参すること。						

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	communication skill						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	仁田原 朋香		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中にも発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解することができる	
	○					“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる	
	○	△				多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	7	対人コミュニケーション③ リスニング			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	9	個人内コミュニケーションと自己概念			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	10	報告・連絡・相談			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	11	対立処理			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	12	パブリックコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
15	まとめ			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。			
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
	レポート	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	内臓の構造を機能と関連づけて説明できる。感覚器と神経系の構造を機能との関連で説明できる。骨の立体構造を説明できる。実験動物で内臓・筋・神経の構造を説明できる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				感覚器の構造と名称を理解し、説明できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、説明できる。	
	○	○				主な神経経路について理解し、説明できる。	
	○	○				演習により骨形態と組織について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内臓学演習①: 男性生殖系系 内臓学演習②: 女性生殖系系				課題プリントにて復習を行う。	
	2	内臓学演習③: 内分泌系 内臓学演習④: 人体の発生				課題プリントにて復習を行う。	
	3	感覚器系演習①: 皮膚、味覚器、嗅覚器 感覚器系演習②: 平衡・聴覚器				課題プリントにて復習を行う。	
	4	感覚器系演習③: 視覚器 神経解剖学演習①: 総論、髄膜、脳室系				課題プリントにて復習を行う。	
	5	神経解剖学演習②: 神経系の発生、脊髄 神経解剖学演習③: 脳(大脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	6	神経解剖学演習④: 脳(間脳、中脳、橋) 神経解剖学演習⑤: 脳(延髄、小脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	7	神経解剖学演習⑥: 脊髄神経(頸神経、腕神経叢、胸神経) 神経解剖学演習⑦: 脊髄神経(腰神経叢、仙骨神経叢)				課題プリントにて復習を行う。	
	8	神経解剖学演習⑧: 脳神経(第Ⅰ脳神経-第Ⅵ脳神経) 神経解剖学演習⑨: 脳神経(第Ⅶ脳神経-第Ⅻ脳神経)				課題プリントにて復習を行う。	
	9	神経解剖学演習⑩: 自律神経系(交感神経系、副交感神経系) 神経解剖学演習⑪: 伝導路(上行性伝導路)				課題プリントにて復習を行う。	
	10	神経解剖学演習⑫: 伝導路(下行性伝導路) 感覚器・神経系のまとめ				課題プリントにて復習を行う。	
	11	骨学演習①: 頭蓋、脊柱・胸郭を構成する骨				演習にて自己学習を進める	
	12	骨学演習②: 上肢の骨、下肢の骨				演習にて自己学習を進める	
	13	組織学演習				演習にて自己学習を進める	
	14	動物形態学演習				動物解剖より解剖理解を図る。	
15	肉眼解剖学実習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	大津 隆一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	授業目標:本講義は実習・特別講義・演習から構成されている。実習では観察力・考察力と文章による表現力を習得する。特講では神経系と感覚系の知識を習得する。演習では基礎学力の習得と国試問題への対応力を習得する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる		
	○	○			人体の各器官の正常な機能が説明できる。		
		○	○		生理学実習を通して実際の生理機能について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	実習の手引きと演習資料を配布する。 参考文献:PTOT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 執筆:石澤光郎 富永 淳 その他その都度紹介する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習 1回目:脳波デモ実習(脳波の説明ができる。) 特講 1回目:末梢神経系(体性神経・自律神経の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	2	実習 2回目:筋電図デモ実習(誘発筋電図のH・M波などが説明できる。) 特講 2回目:脊髄と反射(脊髄の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	3	実習 3回目:心電図デモ実習(P・QRS・T波などが説明できる。) 特講 3回目:延髄・橋・中脳・間脳(脳幹の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	4	実習 4回目:呼吸器量デモ実習(呼吸気量曲線が説明できる。) 特講 4回目:小脳・大脳(小・大脳の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	5	実習 5回目:実習準備①(実習機器の取り扱いができる。) 特講 5回目:体性感覚(体性感覚の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	6	実習 6回目:実習準備②(データ収集と解析・考察ができる。) 特講 6回目:特殊感覚(特殊感覚の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	7	実習 7回目:実習準備③(レポート作成ができる。) 特講 7回目:特講の試験			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	8	実習 8回目:心電図(データ収集・解析・レポート作成ができる。) 演習 1回目:演習①(神経細胞の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	9	実習 9回目:呼吸気量(データ収集・解析・レポート作成ができる。) 演習 2回目:演習②(筋の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	10	演習 2回目:演習②(筋の機能が説明できる。) 演習 3回目:演習③(循環系の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	11	実習 11回目:運動と血圧変動(データ収集・解析・レポート作成ができる。) 演習 4回目:演習④(呼吸器系の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	12	実習 12回目:二弁弁別開(データ収集・解析・レポート作成ができる。) 演習 5回目:演習⑤(排泄・内分泌系などの機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	13	実習 13回目:視野(データ収集・解析・レポート作成ができる。) 演習 6回目:演習⑥(末梢神経系の機能が説明できる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	14	実習 14演習 7回目:演習⑦(中枢神経系の機能が説明できる。) 回目:皮膚感覚(データ収集と解析・レポート作成ができる。)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	15	演習 8回目:演習⑧(感覚器系などの機能が説明できる。) まとめ			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					35%
	小テスト	○					30%
	実習レポート	○		○	○		35%
履修上の注意	実習・演習を行います						

科目名	運動学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	峰岡 哲哉・齊藤 貴文 仲吉 功治		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1.運動学で学んだことを再度復習し、運動器の構造および機能について理解を深める。 2.各関節の構造を理解し、関節可動域の制限因子について理解する。 3.代表的な疾患の特徴を運動学的に説明できるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動学で学んだことを再度復習し、運動器の構造および機能について理解を深める。	
	○	○				各関節の構造を理解し、関節可動域の制限因子について理解する。	
	○	○				代表的な疾患の特徴を運動学的に説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	(1)基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版 (2)筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明・平田総一郎著 医歯薬出版(3)骨格筋の形と触察法 第2版 河上敬介・磯貝 香 編 大峰閣 参考文献:カバンジー機能解剖学 I、II、III 塩田悦仁著 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総論:オリエンテーション、力学の基礎、運動学の基礎、運動器の構造と機能など			復習ノート作成、配布プリント復習		
	2	肩甲帯、肩関節:機能解剖学 肩甲帯、肩関節:機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	3	肩甲帯、肩関節:肩関節障害① 関節可動域制限 肩甲帯、肩関節:肩関節障害② 筋力			復習ノート作成、配布プリント復習		
	4	肘関節、前腕:機能解剖学 肘関節、前腕:肘関節障害(代表的な疾患)			復習ノート作成、配布プリント復習		
	5	手・指関節:機能解剖学 手・指関節:手・指関節障害(代表的な疾患・変形など)			復習ノート作成、配布プリント復習		
	6	脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学 脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	7	脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学 脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	8	脊椎:腰部安定化とそのメカニズム 脊椎:腰部安定化とそのメカニズム			復習ノート作成、配布プリント復習		
	9	股関節:機能解剖学 股関節:機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	10	股関節:股関節障害の捉え方(整形外科的検査法の意義、筋の特性など) 股関節:股関節障害の捉え方(整形外科的検査法の意義、筋の特性など)			復習ノート作成、配布プリント復習		
	11	膝関節:機能解剖学 膝関節:機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	12	膝関節:膝関節障害の捉え方(靭帯損傷・半月板損傷など) 膝関節:膝関節障害の捉え方(靭帯損傷・半月板損傷など)			復習ノート作成、配布プリント復習		
	13	足関節:機能解剖学 足関節:機能解剖学			復習ノート作成、配布プリント復習		
	14	足関節:足関節障害の捉え方(捻挫、アキレス腱断裂など) 足関節:足関節障害の捉え方(捻挫、アキレス腱断裂など)			復習ノート作成、配布プリント復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1.基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。2.様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。3.細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1) 第5版 医学書院 参考文献: 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生物学と病理学				教科書の予習をしておく。	
	2	病理学概論				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	3	病気の分類				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	4	細胞の損傷と適応				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	5	創傷治癒				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	6	循環障害概論(1)				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	7	循環障害概論(2)				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	8	炎症と免疫応答				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	9	アレルギー概論				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	10	再生医療、感染症				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	11	代謝障害				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	12	遺伝障害と胎児障害				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	13	遺伝障害と胎児障害				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	14	腫瘍概論(2)				教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。	
	15	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	臨床検査薬理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤廣美・桑岡 勲・片岡彩子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、医療機関で一般的に行われている画像所見や血液検査の種類、検査結果の解釈を理解することを目的とする。また正常所見から代表的疾患における画像所見の相違を学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。		
	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。		
	○				主作用、副作用の両面から薬物と生体の相互採用について学習し、薬理学全般を理解する。		
	○				臨床上用いられる血液検査、心電図、画像検査などその目的・意義・方法を理解し説明できる。		
	○				代表的疾患の画像所見を読解できる。		
テキスト・教材 参考図書	・教科書:標準整形外科学 医学書院 PT/OT/STのための脳画像のみかたと神経所見 医学書院 15レク チャーシリーズ ・理学療法テキスト 内部障害理学療法 呼吸 中山書店						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	薬理学の導入				担当の範囲を予習してまとめる	
	2	薬物の体内動態				担当の範囲を予習してまとめる	
	3	高血圧治療薬				担当の範囲を予習してまとめる	
	4	抗炎症薬				担当の範囲を予習してまとめる	
	5	臨床検査とその役割(一般検査・血液検査の読み方)				担当の範囲を予習してまとめる	
	6	生理機能検査(心電図の読み方)				担当の範囲を予習してまとめる	
	7	生理機能検査(肺機能検査の読み方)				担当の範囲を予習してまとめる	
	8	画像診断装置(X線,CT,MRI)の基礎知識				担当の範囲を予習してまとめる	
	9	中枢神経疾患の画像診断(総論)脳出血				担当の範囲を予習してまとめる	
	10	中枢神経疾患の画像診断(各論)脳梗塞				担当の範囲を予習してまとめる	
	11	中枢神経疾患の画像診断(各論)腫瘍・変性疾患				担当の範囲を予習してまとめる	
	12	運動器疾患の画像診断(総論)椎体				担当の範囲を予習してまとめる	
	13	運動器疾患の画像診断(各論)四肢関節				担当の範囲を予習してまとめる	
	14	内部障害の画像診断 循環器疾患・呼吸器疾患				担当の範囲を予習してまとめる	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。 ・整形外科疾患の成り立ちを知り、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・整形外科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			理学療法に必要な医学情報、病気の成り立ちを説明できる。		
	○	○			整形外科疾患から起因する、理学療法が関わる障害について説明できる。		
	○	○			整形外科疾患の生理学的見解ができる。		
	○	○			理学療法領域に多い、整形外科疾患の症状を説明することができる。		
	○	○			理学療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 整形外科基礎知識				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	第2章 運動器の評価及び治療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	3	第3章 整形外科的治療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	4	第4章 炎症性疾患(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	5	第4章 炎症性疾患(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	6	第5章 代謝・内分泌性疾患・退行性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	7	第6章 先天性骨関節疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	8	第7章 循環障害と壊死性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	9	第8章 骨・軟部腫瘍				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	10	第9章 神経・筋疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	11	第10章 脊椎の疾患(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	12	第10章 脊椎の疾患(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	13	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
	14	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
15	定期試験対策				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				100%
履修上の注意							

科目名	内科学 I						
科目名(英)	Internal Medicine I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	診断と治療			教科書で予習しておく。		
	2	症候学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	循環器疾患 総論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	4	循環器疾患 各論1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	5	循環器疾患 各論2			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	6	呼吸器疾患 総論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	7	呼吸器疾患 各論1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	8	呼吸器疾患 各論2			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習してお		
	9	消化器疾患 総論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	消化器疾患 各論1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	消化器疾患 各論2			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	肝胆膵疾患 総論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	肝胆膵疾患 各論1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	肝胆膵疾患 各論1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurology I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法が関わる障がいがあるが、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	3	脳XII神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	4	脳XII神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	9	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	13	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(7回~12回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	精神医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	島田 洋		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	本科目では、精神機能の理解から精神疾患の特徴について具体的な症状を含め説明していく。また精神疾患に対する治療法、経過からリハビリテーションにおける対応について学ぶ。また保健、福祉制度について理解していく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			精神機能や代表的な精神疾患の概要について説明できる。		
	○	○			代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。		
	○	○			精神疾患の方々への医療福祉制度について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:上野武治著、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神障害の概念・分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	精神機能、精神症状(1)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	精神機能、精神症状(2)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	脳器質性精神障害、症状性精神障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	精神作用物質による障害、てんかん			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	統合失調症 (1)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	統合失調症 (2)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	気分(感情)障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	神経症性障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	パーソナリティ障害など			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	知的障害・発達障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	治療とリハビリテーション			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	精神保健医療、福祉、メンタルヘルス			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ講義						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。筆記試験(100%)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論								
科目名(英)									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊東 良輔				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	理学療法学科 1年								
授業概要	保健・医療だけではなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。さらに、保健・医療・福祉の法制度の現状と課題についての認識を深めるとともに、生活問題・社会問題把握の視点を習得する。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				社会保障・社会福祉について理念を体系づけて説明ができる			
	○	○				それぞれの制度について、その対象と制度の代表的な内容について説明ができる			
	○	○				それぞれの制度の利用にあたっての窓口と例外について説明ができる			
	○	○				それぞれの制度の連携した利用について説明ができる			
テキスト・教材 参考図書	よくわかる社会福祉 ミネルヴァ書房								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	社会保障・社会福祉の理念と体系 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。			
	2	社会保障・社会福祉の理念と体系 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	3	社会保障・社会福祉の発展				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	4	公的扶助 生活保護制度				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	5	こどもと家庭福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	6	こどもと家庭福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	7	障がい者福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	8	障がい者福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	9	高齢者福祉・介護保険 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	10	高齢者福祉・介護保険 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	11	衛生・保健サービス				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	12	保健・医療制度の現状と課題1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	13	保健・医療制度の現状と課題2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
	14	保健・医療制度の現状と課題3				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。			
15	まとめ				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%		
履修上の注意									

科目名	臨床運動学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 正常な運動・姿勢・動作を理解する。 2. 運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。 3. 疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析する。 4. 分析結果より問題点を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				正常な運動・姿勢・動作を説明できる。	
	○	○				運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について説明できる。	
	○	○		○		疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析できる。	
	○	○		○		分析結果より問題点を抽出できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践。メジカルビュー社、2013。 参考文献:1)中村隆一:基礎運動学第6版。医歯薬出版株式会社、2000。2)臨床実習のための歩行分析ト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 臨床運動学 : 総論			教科書の予習をしておく。		
	2	動作に影響を及ぼす要因① : 関節運動 動作に影響を及ぼす要因② : 動作における関節角度の計測			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	動作に影響を及ぼす要因③ : 筋活動 動作に影響を及ぼす要因④ : 動作における筋出力			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作に影響を及ぼす要因⑤ : 筋緊張 動作に影響を及ぼす要因⑥ : 姿勢保持、動作における筋の張力			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	動作に影響を及ぼす要因⑦ : 体性感覚 動作に影響を及ぼす要因⑧ : 動作における感覚の影響			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	動作に影響を及ぼす要因⑨ : 姿勢制御 動作に影響を及ぼす要因⑩ : 姿勢、動作を制御する要因			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	動作に影響を及ぼす要因⑪ : 脳の機能、錐体路 動作に影響を及ぼす要因⑫ : 運動麻痺、不随意運動、画像所見			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	歩行分析演習① : 歩行周期の概念、立脚相・遊脚相 歩行分析演習② : 股・膝・足関節の角度変化、1歩行周期における筋活動			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	歩行分析演習③ : 歩行様式 歩行分析演習④ : 正常歩行観察・記録			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	歩行分析演習⑤ : 歩行周期の細分化 歩行分析演習⑥ : ハッセンジャー・ロコモーター・床反力			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	疾患別異常歩行分析演習① : 頭頸損傷・脳卒中片麻痺・膝OAの病態 疾患別異常歩行分析演習② : 脊髄小脳変性症・パーキンソン病・股OAの病			授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	疾患別異常歩行分析演習③ : 頭頸損傷患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習④ : 脳卒中片麻痺患者の歩行分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	疾患別異常歩行分析演習⑤ : 膝OA患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑥ : 脊髄小脳変性症患者の歩行分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	疾患別異常歩行分析演習⑦ : パーキンソン病患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑧ : 股OA患者の歩行分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを7~8回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意	動作分析の際、動きやすい服装のこと。						

科目名	評価学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	牧井 昭憲・園田 剛之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 関節可動域の臨床的意義を知り、実際に施行できる 2. 筋力測定の意義を知り実際に施行できる						
授業形式	講義:	△	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			関節可動域の臨床的意義を知り、実際に施行出来る。	
	○		○			筋力測定の意義を知り、実際に施行出来る。	
		○		○		安全に配慮して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・徒手筋力検査法、骨格筋の形と触察法 改訂第2版、基礎運動学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動機能検査 ROM 体幹 運動機能検査 ROM 体幹	教科書の予習をしておく。				
	2	運動機能検査 筋力 総論 運動機能検査 筋力 総論	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	3	運動機能検査 MMT (肩関節:伸展、外転) 運動機能検査 MMT (肩関節:水平外転、水平内転)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	4	運動機能検査 MMT (肩関節:外旋、内旋) 運動機能検査 MMT (肘:屈曲、伸展)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	5	運動機能検査 MMT (前腕:回外、回内) 運動機能検査 MMT (手:屈曲、伸展)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	6	運動機能検査 MMT (手指:MP屈曲伸展、IP屈曲伸展、内転外転) 運動機能検査 MMT (母指:MP/IP屈曲伸展、外転、内転、対立運動)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	7	運動機能検査 MMT (肩甲骨:外転と上方回旋、挙上、内転) 運動機能検査 MMT (肩甲骨:下制と内転、内転と下方回旋、下制)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	8	運動機能検査 MMT (股:屈曲、股屈曲・外転・膝屈曲位での外旋) 運動機能検査 MMT (股:伸展、外転)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	9	運動機能検査 MMT (股:股屈曲位からの外転、内転) 運動機能検査 MMT (股:外旋、内旋)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	10	運動機能検査 MMT (膝:屈曲、伸展、足:底屈) 運動機能検査 MMT (足:背屈ならびに内がえし、内がえし、底屈を伴う外が)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	11	運動機能検査 MMT (母趾と足指:MP屈曲、IP屈曲) 運動機能検査 MMT (母趾と足指MP/IP伸展)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	12	運動機能検査 MMT (頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展) 運動機能検査 MMT (頭部屈曲、頸部屈曲、複合屈曲、頸部回旋)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	13	運動機能検査 MMT (体幹:伸展、骨盤挙上) 運動機能検査 MMT (体幹:屈曲、回旋)	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
	14	実技総復習	教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。				
15	まとめ	これまでの授業資料を復習しておくこと。					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	◎	○	◎			80%
	小テスト			○	○		10%
	宿題・レポート		○	○			10%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学総論						
科目名(英)	activities daily living						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河元岩男		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 「ADLの概念と範囲」を理解する。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3. 補装具、基本的動作介助について理解し実施できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。	
	○	○				日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学の評価について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における基本動作と歩行について理解し指導できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1) 細田多穂: 日常生活活動学テキスト、第2版、南江堂 2) 飛松好子: 新イラストによる安全な動作介助のてびき、第3版、医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	QOLの概念・IL運動の概念・ADL指導(ICFとICIDH・「できるADL」と「しているADL」)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	3	評価の意義・目的、評価基準、尺度・評価に際しての留意点・実用性の考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	4	量的評価と質的評価・日常生活活動評価とその実際 小テスト①			小テストを復習しておくこと。		
	5	FIMとBarthel 理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	6	FIMとBarthel グループワーク			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	7	身の回り動作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	8	基本的動作 意義、目的、臥位・寝返り 小テスト②			小テストを復習しておくこと。		
	9	基本的動作 起き上がり			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	10	基本的動作 立ち上がり			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	11	基本的動作 移乗			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	12	補装具 車椅子 小テスト③			小テストを復習しておくこと。		
	13	補装具 杖			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	14	補装具 歩行器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	15	総まとめ			授業内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。		
評価方法	(1)各授業内容の振り返りとしてデイリーノートを提出する。(2)各単元のまとめとして小テスト(3回)を実施する。(3)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	定期試験(実技)	○	○	◎	○		20%
	小テスト	◎	◎				30%
	デイリーノート	◎	◎		○		10%
履修上の注意	定期試験には実技テストも含まれます						